

理論と実験の協奏

筆者は東京大学石北研究室にて、レチナールシッフ塩基を色素とする光受容タンパク質: ロドプシンの理論研究を行っています。

石北研究室に所属して最初に目指したのが、「アニオン透過型ロドプシン: *GtACR1* の長波長化変異体を創出する」ことでした。*GtACR1* は光遺伝学において、神経抑制型のツールとして利用されます。光遺伝学への応用においては、生体透過性の高い長波長光を吸収することが望ましいのです。・・・